



保育内容総論 目次

●第1部● 保育の基本を学ぶ

第1章 桜 保育の基本と保育内容	2
① 保育内容	2
1) 保育内容とは	2
2) 幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・ 保育要領における保育内容	3
3) 「ねらい」や「内容」の考え方	6
4) 養護に関する保育内容	7
5) 小学校以上の教科教育の内容と「保育内容」	7
② 保育の構成とよりよい保育の条件	10
1) 保育の構成	10
2) 保育内容総論で学ぶこと	12
column 「領域」の導入	14
第2章 桜 成熟社会のなかでの子どもと保育・教育	15
① なぜ「生きる力」を育むことが必要なのか	15
1) 社会における教育の機能	15
2) 日本の社会の在り方—成熟した社会に求められる力	16
3) 生きる力とは	17
② 学校教育において育成すべき資質・能力(3つの柱)	21
1) 「生きる力」の具体化と「社会に開かれた教育課程」	21

- ② 3つの柱となる資質・能力 21
- ③ 幼児教育において育みたい資質・能力22
 - ① 2017（平成29）年の3法令改訂（定） 22
 - ② 幼児教育において育みたい資質・能力 22
 - ③ 幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」 23
 - column** 「10の姿」を活用して子どもの姿を語り合う 26

第3章 ✨ 幼稚園教育要領、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育および保育の内容の考え方27

- ① はじめに27
- ② 幼稚園教育要領における教育および保育の内容の考え方28
 - ① 幼稚園教育要領の法的な位置づけ 28
 - ② 幼稚園教育要領【2017（平成29）年3月告示】の改訂の柱 30
- ③ 保育所保育指針における教育および保育の内容の考え方31
 - ① 保育所保育指針の法的な位置づけ 31
 - ② 保育所保育指針【2017（平成29）年3月告示】の改訂の柱 32
- ④ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育および保育の内容の考え方35
 - ① 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の法的な位置づけ 35
 - ② 幼保連携型認定こども園教育・保育要領【2017（平成29）年3月告示】の改訂の柱 36
 - column** 子ども一人一人を理解することからの出発 39

第4章 ✨ 遊びを通じた総合的な指導40

- ① 子どもにとっての遊びの意味40
- ② 子どもの遊びのなかの学び—事例から41
 - ① 事例1：5歳児2月—お手玉をしている場面から 42
 - ② 事例2：5歳児10月—「マカロン屋さんごっこしよう」 43
- ③ 主体的・対話的で深い学びを保障する遊びを通じた総合的な指導47
 - ① 子ども一人一人の「見方・考え方」に共感し理解すること 49
 - ② 子どもの「見方・考え方」に潜む学びをとらえること 49

- ③ 子どもの「見方・考え方」を生かし、教材を工夫すること 50
- ④ 子どもの入園から修了までの学びの様相に見通しをもって指導に当たること 50
- column** 「自発的な活動としての遊び」が実現できているか 51

第5章 ✨ 幼児期の教育と小学校教育の接続52

- ① 学習指導要領等における幼小の接続に関する内容53
 - ① 学習指導要領における幼小の接続に関する内容 53
 - ② 幼稚園教育要領等における幼小の接続に関する内容 54
- ② 幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続に向けて56
 - column** スタート・カリキュラムとは 61

第6章 ✨ 保育内容の変遷62

- ① 幼稚園の創設と恩物による保育の開始—明治初期62
- ② 幼稚園の普及と「遊び」による保育の展開—明治後期65
- ③ 新教育の受容と誘導保育の成立—大正・昭和初期67
- ④ 戦後における保育内容の変遷69
 - ① 「学校教育法」「児童福祉法」の公布と『保育要領』の作成 69
 - ② 幼稚園教育要領 71
 - ③ 保育所保育指針 72
 - ④ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 73
 - column** フレーベルの幼稚園 76

●第2部● 保育における計画を学ぶ

第7章 ✨ 子ども理解に基づく保育の展開78

- ① 保育における子ども理解78
 - ① 保育の営みと子ども理解 78
 - ② 子ども理解とは 80
- ② 子ども理解の方法82
 - ① 観察を通して理解する 82

② 関わりを通して理解する	83
③ 記録を用いて理解する	84
④ 連携を通して理解する	85
⑤ 子どもを理解する保育者の姿勢	87
① 肯定的に見る	87
② プロセスをとらえる	88
③ 個と集団をとらえる	89
column カウンセリングマインド	91

第8章 保育の計画の考え方 92

① 保育の計画はなぜ必要か	92
② 「カリキュラム・マネジメント」をとらえる視点	94
① 幼稚園等の教育目標等を踏まえた総合的な視点で、その目標の達成のために必要な具体的なねらいや内容を組織すること	95
② 教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること	96
③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、家庭や地域の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること	98
③ 「カリキュラム・マネジメント」を進めるうえでの保育者の意識	99
column 全体的な計画	101

第9章 指導計画作成の考え方と作成の実際 102

① 子どもの主体性と指導の計画性	102
① 幼稚園教育要領において	103
② 幼保連携型認定こども園教育・保育要領において	106
③ 保育所保育指針において	107
④ 評価の実施	110
② 指導計画作成の手順や配慮事項	111
① 長期・短期の指導計画	111
column 保育時間の相違から考える保護者と過ごす時間	124

第10章 指導計画の評価・改善と保育者の役割 125

① 指導計画の評価・改善の必要性	125
① 保育の質の向上をめざす	125
② 子どもの発達的特徴に応じる	126
③ 保育の基本に応じる	126
② 指導計画の評価・改善の構造	126
③ 指導計画の評価・改善のポイント	128
① 子どもの発達の過程を理解する	128
② 保育者の関わりを評価・改善する	128
③ 多面的な視点から評価・改善する	129
④ 短期指導計画の評価・改善	129
① 短期指導計画（週・日）の評価・改善のポイント	129
② 事例1：5歳児2月（週日案）	130
⑤ 長期指導計画の評価・改善	131
① 長期指導計画（年・期・月）の評価・改善のポイント	131
② 事例2：5歳児4月（月間指導計画）	131
⑥ 評価・改善における記録や園内研修の位置づけ	132
① 保育者自身の省察を通じた評価・改善—記録を通して	132
② 協働的関係のなかで高める評価・改善—カンファレンスを通して	133
column 「子どもを理解する」ということ（5歳児10月のエピソードより）	134

第11章 園行事の考え方と指導 135

① 子どもにとって行事とは何か	135
② 年間指導計画に位置づく行事	136
① 幼児教育における行事とは何か	136
② 「幼稚園教育要領」における行事に関する留意事項について	137
③ 子どもの姿から日常の保育と行事との関係を探る	138
① 日常的な遊びや生活と行事との連続性	138
② ハレの日としての行事	144
column 季節や生活の節目としての行事	147

●第3部●
保育の実践力を磨く

第12章 子どもの人や人との関わりを深める環境の構成と
教材研究

- ① 環境を通して行う教育 150
 - ① 乳幼児期の教育の基本 150
 - ② 一人一人の発達の特徴を踏まえる 151
 - ③ 意図的・計画的な環境の構成 151
- ② 保育における環境の構成の実際 153
 - ① 物的環境を構成する 155
 - ② 人的環境を構成する 157
- ③ 教材研究 157
 - ① ねらいや内容を考えて教材を検討する 158
 - ② 子どもの思いが実現できる教材を検討する 158
 - ③ 身近なものや場所の多様な可能性を検討する 160
 - column** 自分で生活を進める環境の工夫 162

第13章 保育記録を書くことの意義と実際

- ① はじめに 163
- ② 保育記録を書くことの意義 164
 - ① 子どもを理解するために記録を書く 164
 - ② 保育者の指導を振り返るために記録を書く 165
 - ③ 保護者との連携に生かすために記録を書く 166
- ③ 保育記録の実際 167
 - ① 保育記録のいろいろな様式 167
 - ② 保育記録に何を書くのか 171
 - column** 保育記録を生かした園内研修の取り組み 174

第14章 障がいのある子どもの指導

- ① はじめに 175

- ② 障がいのある子どもの受け入れについての基本的な考え方 176
 - ① 入園までに必要な取り組み 176
 - ② 保護者に園の教育方針について理解を得る 177
 - ③ 支援体制と特別支援教育コーディネーターの配置 178
- ③ 障がいの理解と具体的な支援 178
 - ① 発達特性を理解することから指導の手立てがみえる 178
 - ② 発達特性（行動）の理解から個別の指導計画の作成へ 179
- ④ 他機関との連携 183
 - ① 専門機関との連携 183
 - ② 小学校との連携 183
- ⑤ 障がいのない子ども等との交流と学級づくり 184
 - ① 周りの子どもとの遊びの接点をつくる 184
 - ② 行事の内容を工夫する 184
 - ③ 保育者がモデル 185
- ⑥ 保護者支援 185
 - column** 子どもの発達特性をとらえた教材開発 187

第15章 模擬保育の実際

- ① 模擬保育の意義と目標 188
 - ① 模擬保育の意義 188
 - ② 模擬保育で学ぶこととその目標 189
- ② 模擬保育の進め方 190
 - ① 保育内容の構造を理解する 190
 - ② 保育を構想する（計画立案と実施）一個々の学習からグループ学習へ 193
- ③ 模擬保育の反省・評価の進め方 195
 - column** 発達と保育 197

第16章 保育内容の現状と課題

- ① 現代の子どもの生活と発達 198
 - ① 生活の連続性の重要性 198
 - ② 子どもの家庭環境 199

③	子どもの生活時間	201
④	子どもの生活体験・自然体験	202
⑤	子どもの発達状況の変化と発達の個人差	203
⑥	「現代の子どもの生活と発達」のまとめ、保育内容への示唆	204
②	外国籍や海外から帰国した子どもなどへの対応	206
③	保育ニーズの多様化	208
④	保育者の資質の向上	209
column	子どもの安全と子どもの体験	210
索引		210